



とうぎん

有田町立有田小学校 校長 山口 英一



ゴールデンウィークが終わりました。有田町内は陶器市でたいへんにぎわっていたと聞きましたが、2日からの5連休中に、子どもたちの事故やけがなどの連絡はありませんでした。保護者、地域の皆さんのご指導やお声かけ、本当にありがとうございました。

さて、ゴールデンウィーク前(4月28日)の全校朝会で、次のような話をしました(要約しています)。

校長先生が絶対に忘れない数字を紹介します。-6桁の数字を表示- この数字は校長先生の誕生日です。では、なぜ忘れないのでしょうか。それは、書類に書いたり人に伝えたりと何度も使っているうちに、自然と覚えて忘れなくなっているからです。

「繰り返す」ということはみんなにとっても、とても大切な力になります。勉強は一度やっただけでできるようになるものではありません。漢字も計算も音読も、最初は難しくても、何度も取り組むことで少しずつ確実にできるようになります。「もう一回やってみよう」「できるまで続けてみよう」という気持ちが、自分の力を伸ばしていきます。繰り返しはたいへんを感じることもあります。でも、諦めずに頑張ることが力を身につける一番の近道です。

また、「ありがとう」という感謝の言葉も大切にしてほしいと思います。繰り返し伝えることで、周りの人を大切にする気持ちが育ちます。さらに、「ありがとう」と言える人は、自分の行動も変わってきます。

5月は、新しい学年に慣れてくる時期です。だからこそ、「なんとなく」過ごすのではなく、「意識して取り組む」ことが大切です。「学習では、できるまで繰り返すこと」、「生活では、「ありがとう」を繰り返し伝えること」を意識していきましょう。

一人一人の「繰り返し」が、自分の成長につながり、学校全体をよりよくしていきます。ぜひ、「もう一回」を大切にしていってほしいと思います。

記録に挑戦!

4月30日に新体力テスト(写真の4種目)を実施しました(50m走やソフトボール投げなどのその他の種目は、授業で実施中です)。これは、子どもたちの体力や運動能力の現状を把握し、その結果を今後の健康づくりや体力向上に生かすために行うものです。

ふれあい班(縦割り班)で行ったので、上級生が下級生を測定場所に連れて行ったり、記録をとる手伝いをしたりしました。1年生はやり方を見たり、教えてもらったりしながら、元気よく体を動かしていました。



反復横跳び



上体起こし



立ち幅跳び



長座体前屈

マイセンからのお返事

4年生は昨年度(3年生時)、ドイツのアリタ小学校マイセンの子どもたちとの交流を重ねてきました。その一つに、今年の干支の馬の絵をお互いに描こうという取り組みがありました。有田小学校で馬全体の絵を描いて、一部分に模様を付けました。そのあとを、マイセンの子どもたちが完成させるというものです。

4月の中旬、完成した絵がドイツから届きました。そして先日、4年生の子どもたちに披露しました。絵を見た瞬間、子どもたちから「ワーツ!」という歓声があがり、「色がきれい」とか「パズル模様になっている」という感想も聞こえてきました。遠く離れていても、子どもたちの思いをつなぐことができることを実感するとともに、国際理解や協働することの大切さを学ぶ機会となりました。

今年度は、新3年生が交流を引き継ぎます。有田小学校でしかできない体験を通して、子どもたちの見方や考え方が広がっていくことを願っています。



春の青空の下で 陶器市遠足

5月1日、前日の雨から一転して天候にも恵まれ、陶器市遠足を実施しました。

出発に先立ち、体育館で1年生の歓迎集会を行いました。みんなで「さんぽ」を歌った後、1年生は「好きなもの」を発表しながら自己紹介をしました。ゲームでは恒例の「陶器市へ行こうよ」を行いました(「とうきいち」と言われたら、その文字数である5人のグループをつくるゲームです)。文字数が増えるにつれて難しくなりましたが、「こっち、こっち」と手を挙げて呼び合ったり、自分から誘いに行ったりしながら、協力して課題をクリアしようとする姿が見られました。どの子も笑顔にあふれ、和やかな雰囲気の中で活動していました。



出発前には、ミッションの確認を行いました。【①500円でやきものを買う ②インタビューをする(3・4年生) ③大きな声であいさつをする】の3つです。そして、いよいよ陶器市遠足へ出発しました。ふれあい班(縦割り班)ごとにコースを巡り、やきものを購入したり、店員さんやお客さんにインタビューをしたりと、子どもたちは意欲的に活動していました。インタビューした方がニューヨークから来られていると知り、驚く様子も見られました。



値段の交渉に応じていただいたり、トイレを貸して下さったりと、地域の皆様にはご迷惑をおかけした場面もあったかと思えます。そのような中でも、子どもたちの活動を温かく見守って下さった保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。